

平成29年度「高校生等防災教育基礎講座」実施状況

1. 実施概要

平成29年度は、県立高等学校9校、特別支援学校1校の計10校で実施しました。

内容は、防災に関する講演（講師派遣）を基本とし、加えて模擬体験を実施しました。



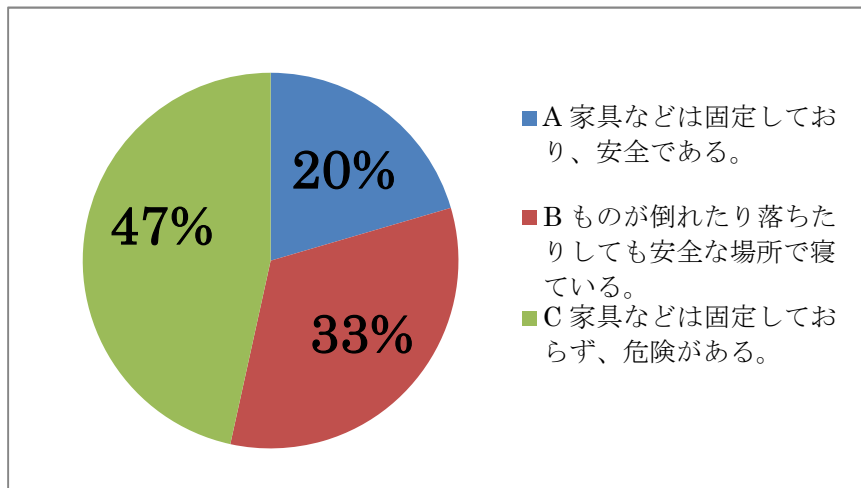
【実施校】

No.	実施日時	実施校・参加者	演題・講師
1	7月13日(木) 10:50~11:40	県立関宿高等学校 230名 (全校生徒)	「早めの避難にまさる防災なし —東日本大震災体験談」 いいおか津波語り継ぐ会会長 仲條 富夫 氏
2	7月14日(金) 10:00~12:00	県立君津特別支援学校 87名 (全校生徒)	「災害から身を守るための日頃からの取組・ 心得」 地震防災アドバイザー 川端 信正 氏 ※煙体験を実施
3	7月19日(水) 9:10~10:00	県立九十九里高等学校 281名 (全校生徒・地域住民)	「津波からの避難方法及び心得 及び高校生ができる防災への取組」 気象庁銚子地方气象台 気象情報官 長部 透 氏
4	9月1日(金) 10:00~11:30	県立一宮商業高等学校 521名 (全校生徒・地域住民)	「津波からの避難方法及び心得 及び高校生ができる防災への取組」 気象庁銚子地方气象台 気象情報官 長部 透 氏 ※起震車体験を実施
5	9月4日(月) 14:10~15:00	県立銚子商業高等学校 777名 (全校生徒・地域住民)	「被災地での経験と防災・減災に向けた取組 み」 東京災害ボランティアネットワーク事務局長 福田 信章 氏
6	10月6日(金) 13:30~15:20	県立松戸南高等学校 570名 (全校生徒)	「災害への備えと災害に会った時の対処等」 (公財)市民防災研究所 細川 顕司 氏 ※煙体験を実施
7	12月18日(月) 9:00~10:30	県立泉高等学校 450名 (全校生徒・地域住民)	「高校生ができる防災の取組みと ボランティア活動上の注意点」 災害救援ボランティア推進委員会 天寺 純香氏
8	12月19日(火) 9:00~11:00	県立八千代西高等学校 560名 (全校生徒)	「災害時に生命を守り、助け合う」 災害救援ボランティア推進委員会 天寺 純香氏
9	12月20日(水) 13:10~14:10	県立市川特別支援学校 87名 (1~3学年高等部)	「自然災害と防災・災害時の身の守り方・ 大きな地震の時の対応の仕方」 減災・福祉パートナーズ 蓮本 浩介 氏
10	2月28日(水) 9:10~10:45	県立銚子高等学校 329名 (全校生徒・地域住民)	「過去の大地震での被災体験と高校生ができる 防災への取組・心得」 社会福祉法人ロザリオの聖母会 ナザレの家あさひ 荒井 隆一 氏

2. アンケート結果

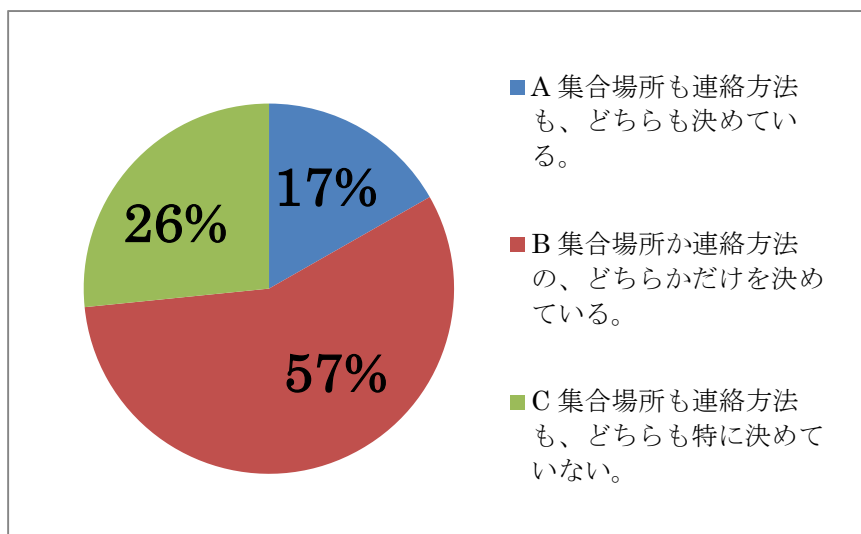
「高校生等防災教育基礎講座」の参加者に対して、日常からの防災対策及び東日本大震災後の災害に対する意識を問うアンケートを実施しました（特別支援学校を除く）。

- (1) あなたの家庭では、寝ているときに地震が起こった場合、体の上にもものが倒れてきたり落ちてきたりする危険はありますか？



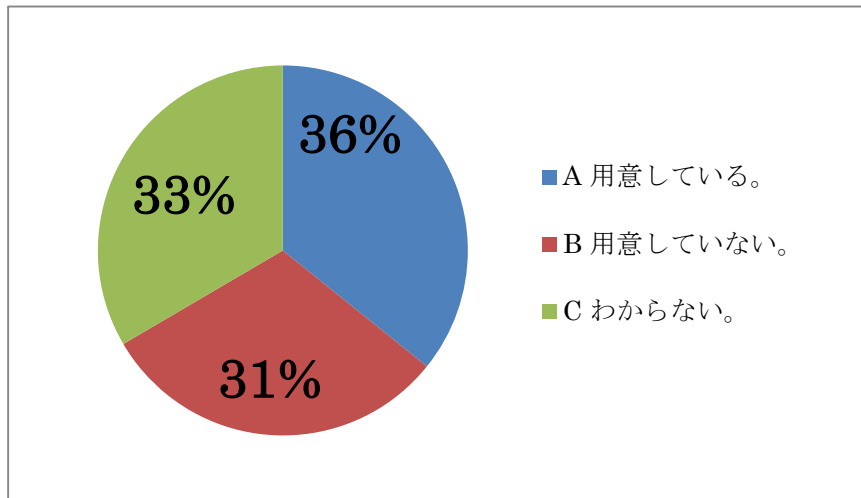
- (2) 東日本大震災の起きた当日は、各交通機関が止まり、遠くから通学している人は帰宅が困難になりました。また、電話も通話が集中し、つながらなくなりました。

家族と離れている時に災害が起きた場合、集合場所や連絡方法を決めていますか？

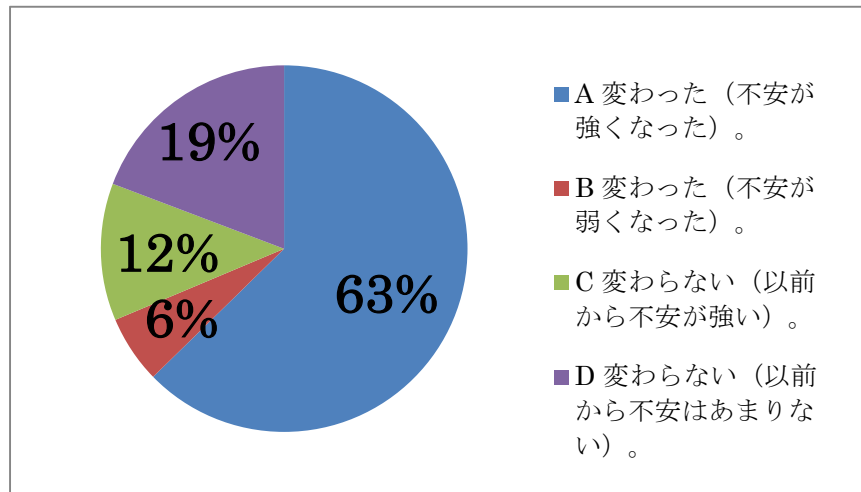


(3) 東日本大震災のように、大災害時にあなたの家庭が被災すると同様に、自治体なども被災し、すぐには公的機関からの救援が望めない場合があります。

あなたの家庭では、災害に備えて水や食料などの非常品を用意していますか？



(4) あなたは、東日本大震災が起きる前・後をくらべ、大地震や風水害に対する気持ちに変化がありましたか。



(5) 本日の講座についての感想や、東日本大震災後にあなたが感じたことを書いてください（主な回答）。

- ・避難指示が出たら、すぐに逃げて落ち着くまで出ないようにしようと思った。非常用品は、すぐ手に取れるところに置こうと思った。
- ・前々から備える大切さが身にしみて分った。勉強になった。
- ・早く逃げるのが大切なのが話を聞いてわかりました。
- ・もう一回、親と話し合い、集合場所などの確認をしようと思う。

- ・伝えたいことがたくさんあったんだなと思った。東日本大震災の時、親と離れた場所にいたので不安と恐怖しかありませんでした。もう二度とあんな思いはしたくない。
- ・改めて震災の怖さがわかる講話だった。この講話のおかげで家族ともっと話してみようと思う良い機会になった。
- ・最近この辺では大きな地震が無いので気が緩んでしまっているような気がする。大地震はいつくるかわからないので、またこれから気を引き締めて災害にすぐ対応できるようにしたい。
- ・もう6年も経ってしまって、緊張感が無くなっていたのが、また津波は大変怖いものだということを改めて分った気がします。
- ・津波がどのようにして流れてくるのかはつきりわかりやすくなっていて、とても理解が深まりました。1分1秒でも逃げ遅れたら大変だと思いました。
- ・津波の速さが、飛行機や陸上競技の選手と同じだと聞きイメージができた。
- ・もし自分が被災した場合、そばに誰かいてくれたら心強いと思いました。私もこれからは誰かに安心してもらえる人になりたいと思いました。
- ・今回の講座で、防災意識をしっかりと持つておくことの大切さがよくわかりました。これからはその対策をしっかりと行って行きたいと思います。
- ・ボランティアの方と被災地の皆さんが何らかのことで協力し合い、寄り添うことがすばらしいなと思いました。自分もボランティアとして被災地に足を運んでみたいと初めて思いました。
- ・地震が本当におきてからの対策ではなく、起きる前にしっかりと対策すべきと感じた。また、起きてしまった後でも冷静に対応することを、慌てないことが大切だと思った。
- ・私は震災の時、家には妹と二人で、とにかく妹を守らなければという責任感の方が強かったです。その時から無意識ですが家族を大切にしようという気持ちがあったんだなと思いました。
- ・曜日や時間帯で被害の大きさが違うことに驚いた。
- ・高校生にもできることがあると知り、私たちは無力ではないと思った。
- ・世界の地震の10分の1が日本で起こっていることを知り、自分に関係のない話ではないと思った。
- ・煙ハウス体験では、周りが真っ白でどこにいるのかわからなくなった。ハンカチが大事だと思った。
- ・「あ、頭上にテレビがあるな」ともう一度生活を改める必要があると思った。